

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名：城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成25年3月1日 2時間目 学年：2年 教科：社会科 単元名：戦争の終結 ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋戦争の大まかな流れを理解する</li> <li>・ポツダム宣言の持つ意味を考えることができる。</li> <li>・日本の敗戦後の世の中のようにすを想像することができる。</li> </ul>	
単元全体の流れ	
(一斉学習)インターネットからダウンロードした広島・長崎への原爆の投下(その後の背教のようすも含む)の映像を見る。→(班別学習)なぜアメリカは原爆を投下したかについて話し合い、その後、発表する。→(一斉学習)天皇の玉音放送を聞く。→(班別学習)言葉の意味を調べる。→この放送を聞いて、人々はどう思ったのか意見を出し合う。→この後の日本はどうなっていくのかについて予想する。	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標(評価の観点)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポツダム宣言の意味を理解しているか。</li> <li>○敗戦の結果、日本国民がどのような生活をするようになるのかについて考えることができる。</li> </ul>	
情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input type="checkbox"/> 導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他( )	
活用した者	
<input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 生徒	
活用する目的	
<input type="checkbox"/> 課題の提示 <input type="checkbox"/> 動機付け <input type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化 <input type="checkbox"/> 教員の説明 <input type="checkbox"/> 生徒による説明 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動 <input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較 <input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他( )	
活用したコンテンツ	
○社会科関係の映像	
活用した機器	
<input type="checkbox"/> IWB <input type="checkbox"/> タブレットPC <input type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他( )	

※情報通信技術の活用のうち、本時におけるポイントとなる活用について主なものを回答すること。

## 1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
広島・長崎に原爆が投下される映像とその後の街の映像を見る。	太平洋戦争の推移を復習しながら、原爆投下に至った経緯に注目させる。	電子黒板
なぜ原爆が投下されたのかについて話し合う。(アメリカ・日本の双方の立場に立って考える。)	多面的・多角的に考えられるよう、アメリカ・日本の双方に考慮を巡らせることができるよう示唆する。	パソコン
ポツダム宣言受諾の玉音放送を聞く。	文章の中に難解な言葉が多いので、あらかじめ玉音放送の文章をプリントに印刷し、配付しておく。	電子黒板
玉音放送の意味を考える。		パソコン、電子黒板
その後の日本の人々の生活がどうなっていくかを話し合う。	小学校での学習した既存の知識をもとに考えさせる。	

## ＜協働学習の実施状況＞

- 生徒が相互に教え合う場面があった     数名が一緒に学び合う場面があった  
 数名が協力したり助け合ったりする場面があった     数名が話し合う場面があった  
 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった  
 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった  
 ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

## 2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

## (1) 活用のねらい

パソコンを活用し、インターネットに接続し、調べ学習を行うことで、自らの課題についても同様の作業ができるようになる。

## (2) 活用により期待される効果

自らの課題を解決しようとする意欲を喚起する。

## 3. 実践上の課題

生徒全員(30名)がパソコンでインターネットに接続することで、接続しにくくなることがある。

※本報告は、2頁を超えて作成しても構わない。

※本報告とあわせて、授業の動画や写真を提出する際は、Webでの公開など広く使用されることも考えられることから、保護者の了解を得るなど必要な対応を行うこと。